



生野銀山 開坑1200年 DISCOVERED SILVER 807-2007

今年2007年は、生野銀山の開坑から1200年になります。この節目の年に朝来市では住民の皆さんが中心となり、生野銀山1200年事業実行委員会（会長：桑田純一郎氏）を組織し、様々な事業が展開されます。3月には3つの関連イベントが実施されました。

○ ○ ○ ○ ○ 主な事業 ○ ○ ○ ○ ○

●生野銀山開坑1200年記念式典 &シンポジウム

8月11日(土) 生野メインホール

銀山開坑1200年を皆さんで祝うとともに、日本の近代化を支えた鉱業と閉山後の課題にスポットをあて、過去の財産や歴史を学び、いかに未来のまちづくりにつなげていくかを考えるシンポジウムを開催します。

●生野夏物語 8月11日(土)～15日(水)

生野踊りや懐かしい店の復活など、生野の情緒ある夏を再現していきます。

- 11日(土) 記念式典・シンポジウム
- 12日(日) 志村喬映画上映会・遺品展
- 13日(月) 生野の盆踊り
(小野大橋を中心に奥地区)
- 14日(火) 生野の盆踊り
(鍛冶屋町通りを中心に口地区)
- 15日(水) 精霊流し

●基幹イベント

- 生野鉱山生活文化展
8月～9月 生野メインホール
- 復活・銀の工房展
8月～9月 史跡生野銀山
- 音楽家育成国際セミナー(生野ムジカ)
8月20日(月)～9月1日(土) 但陽会館
- 生野三巨匠洋画の特別公開
8月～9月 但陽美術館
- 銀の馬車道・鉱石の道連携イベント 関係市町

●市民提案イベント

〔市民による手づくりの記念イベント4月～12月〕

市民が中心となり企画し、実施するイベントに、助成を行うことにより、生野銀山開坑1200年の情報発信と市民の手づくりによる記念事業の促進を図り、今後のまちづくりに繋げていきます。

●まちづくり基金の創設

—まちづくりサポーター制度の導入—

生野銀山開坑1200年を契機に、次年度以降も住民の自主的なまちづくりを継続していくため、毎年、個人・企業・団体に寄附(会費)をお願いし、資金面からまちづくりを支えていくシステムを立ち上げていきます。

生野銀山開坑1200年事業とは

生野銀山の開坑は通説によると大同2(807)年と伝えられています。

生野銀山は、時の権力者の支配と保護を受けながら栄枯盛衰を繰り返し、江戸時代には天領として幕府の財政を支えてきました。

明治以降においても、日本初の官営鉱山となり、ついで皇室財産、三菱合資会社の経営へと移っていくなかで、日本の近代化に大きく貢献してきた鉱山でした。

その生野銀山が今年(2007年)、1200年の節目の年を迎えます。この記念すべき節目の年を契機に、生野地域では、鉱山の歴史文化を活かした住民主体の事業展開を行う「生野銀山1200年事業実行委員会」が地元団体、企業などが参画し発足しました。

この実行委員会が実施する「生野銀山開坑1200年事業」では、シンポジウムや式典をはじめ、さまざまなイベントが予定されています。永い歴史の中で引き継がれてきた鉱山施設や構築物、そこで営まれた暮らしや文化を、地域固有の財産ととらえ、一過性の事業に終わらせることなく、地域の未来を見据えて“歴史文化遺産を活用した地域再生”を目標とした取り組みとなっています。

また、こうした取り組みを通じて全国の鉱山町と連携を図り、将来的には世界遺産登録を目標にしていく予定です。

朝来市は、この取り組みの成功が、朝来市内の古代、中世、近代にいたるさまざまな歴史文化遺産を持つ地域に波及効果をもたらすことを期待し、この住民主体による“歴史文化遺産を活用した地域再生”の取り組みを朝来市のモデルの事業として、積極的な支援を行ってまいります。

市民の皆さんのご理解とご協力、そして、ご参画をよろしくお願い申し上げます。

●関連イベント

次の事業は、1200年にちなんだ催しや、生野への来訪者に対する「おもてなし」をキーワードにひと工夫をしていきます。
ロータリークラブ講演会(4/15) 生野銀山へいくろう祭り(4/15) ぼっぼ祭り(5/20) 銀谷のわらべ(5/5～6/5) 銀谷の七夕(7月) 銀谷祭り(9/23) 生野秋祭り(10/13～14) かいわ祭り(11/11) 生野イルミネーションロード(11月下旬～)